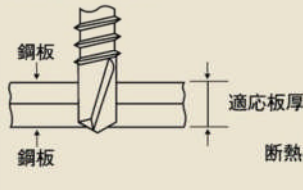


施工データ

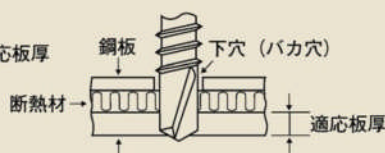
■適応板厚について(考え方)

各商品サイズ毎に掲載している適応板厚を参考にしてください。

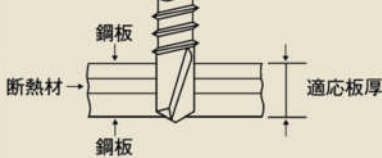
①鋼板を重ねた場合



③②とほぼ同じ条件であるが上側の鋼板にバカ穴があり、かつ断熱板にねじ切りがされない場合

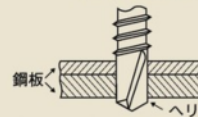


②鋼板と鋼板の間に断熱材や空間がある場合



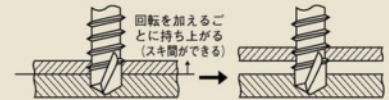
■鋼板と鋼板の重ね締結について

<正しい使用>



●ドリル部のヘリが、鋼板を突き抜けてもねじ部が鋼板にかかっていない。

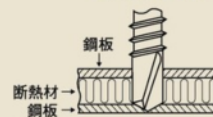
<間違った使用>



●ドリル部の穿孔中にねじが鋼板にかかっていると、上部の鋼板が持ち上がってしまい、鋼板の間にスキ間が生じて締結できない。

■鋼板と鋼板の締結において、中間に断熱材がある場合

<正しい使用>



●ドリル部のヘリが、鋼板を突き抜けてもねじ部が鋼板にかかっていない。
●相手材の厚みを考慮してロングポイントを使用することも可能

<間違った使用>



●ドリル部の穿孔中にねじが鋼板にかかっていると、上部の鋼板が持ち上がってしまい、断熱材の間にスキ間が生じて締結できない。

■強度表と試験方法

品番	単体引張強度 (kN)	単体剪断強度 (kN)	ねじり破断トルク (N・m)	引張保持力強度 (kN)					
				板厚:1.2mm	板厚:1.6mm	板厚:2.3mm	板厚:3.2mm	板厚:4.5mm	板厚:6.0mm
PAN - 3.5×16	6	4.5	3.8	1.1	2.3	3.3	—	—	—
HEX - 4×16	10	5.5	6.4	1.2	2.4	3.7	6.2	—	—
5×25	13	8.5	13.4	—	2.7	3.8	6.2	10.6	—
6×35	22	11.5	19.4	—	—	4.5	6.7	10.7	19.0

単体引張強度



単体剪断強度



単体ねじり強度



引張保持力強度



●数値は試験結果ですので、許容設計荷重は状況に応じ安全率を掛けて求めてください。(ステンレス製品の強度は若干異なります)
●対象躯体毎の材料特性によってバラつきがありますので、許容設計荷重は状況に応じて安全率を掛けてください。

■ねじ込み試験とドリリングタイム

- 試験用鋼板
市販品のCチャン JIS G-3350 リップみぞ形鋼
- 試験装置
市販品のスクレュードライバー3.5~6.0A
2,500~4,000rpm JISに準じる
推力は、スクレュードライバーを含めた全体の荷重とする
- 供試体 PAN、HEXL

品番	呼び径(mm)	鋼板厚(mm)	推力(kg)	基準タイム(sec)
PAN - 3.5×16	3.5	1.6	13.6	2.5
		2.3	18.1	4.5
4×16	4	1.6	13.6	2.5
		3.2	18.1	5.5
5×25	5	3.2	18.1	5.0
		4.5	18.1	6.0
6×35	6	6.0	22.7	8.0
		12.0	22.7	20.0

■作業姿勢と推力の目安(標準の日本人男性)



●頭の高さ…0.1kN(10kgf)



●天井…0.12kN(13kgf)



●肩の高さ…0.14kN(15kgf)



●腰の高さ…0.19kN(20kgf)



●床面…0.24kN(25kgf)